

# 潮流

沢庵(たくあん)和尚は戦国時代、武士の子として但馬に生まれたが、わずか十歳で両親と別れて仏門に入った。修行一筋、無欲無心、質素で孤高の一生を送った。生涯、自然の理に従

い、自由自在に、権威に屈することなく、乱世を力強く生き抜いた名僧であった。

鳥取ガス(株)代表取締役社長

## 児嶋 祥悟



の武蔵を天主閣に一年間閉じこめ、徐々に開眼させていく沢庵。迷う武蔵のまわりを囲く沢庵。それら、いくつもの場面が今もなお、脳裏に深く焼きついている。

私は学生時代、名僧沢庵のように悟りの境地に近づき、

ばかりという歌があるが、このような心なので、いつまでも悟りは開けない。悟る沙婆(しゃば)の女人の美しさとネオンの眩(まぶ)しさは、若い日の思い出として今も忘れることができない。

その後、沢庵に巡り合ったのは、NHKテレビの大河ドラマ『春の坂道』だった。沢庵の境地であろう。

人間は長い歴史の間に、自然から知らず知らずのうちに、遠ざかってしまったようである。己が欲望のままに自然を破壊し、支配するつもりでいるが、到底、偉大な大自然を人間の力で征服できるものではない。人間は傲(おご)り、漫(まん)と思いついて生かされていることを謙虚に受けとめなければならぬ。

## 大自然の鼓動を聴く

### 沢庵と建仁寺の思い出

「悟り」を辞典で引くと、「吾が心をしつと見つめること」によって、自然に開けてくるものが「悟り」と書いているが、問題は私自身の心である。「割って見せたや私の心、割れば色気と欲

い、朝四時半起床▽広い廊下のぞつきんがけと庭掃除▽般若心経と座禅▽和尚の部屋に三拝九拜して入り、公案の問答▽朝ご飯は麦めし、みそ汁、漬物▽朝十時托鉢▽作務は新まき▽割り、庭仕事▽入浴は週に二回、タオルで強くこするだけ▽就寝夜八時半。

た。修行中の柳生宗矩に、「汝は何故に生まれしや。汝は何を望んで生きんとすや。汝は汝の正体を見しや否や。」の三つを解くと、昔のままに掛けられていた。門札が淡々とした和尚の生活を物語り、時を超えて、自然の恩恵により生かされているのである。自然の声を傾け、大自然の鼓動を聴くことが、沢庵の境地に近づくことではないだろうか。

た。修行中の柳生宗矩に、「汝は何故に生まれしや。汝は何を望んで生きんとすや。汝は汝の正体を見しや否や。」の三つを解くと、昔のままに掛けられていた。門札が淡々とした和尚の生活を物語り、時を超えて、自然の恩恵により生かされているのである。自然の声を傾け、大自然の鼓動を聴くことが、沢庵の境地に近づくことではないだろうか。

た。修行中の柳生宗矩に、「汝は何故に生まれしや。汝は何を望んで生きんとすや。汝は汝の正体を見しや否や。」の三つを解くと、昔のままに掛けられていた。門札が淡々とした和尚の生活を物語り、時を超えて、自然の恩恵により生かされているのである。自然の声を傾け、大自然の鼓動を聴くことが、沢庵の境地に近づくことではないだろうか。

「割って見せたや私の心、割れば色気と欲だけ▽就寝夜八時半。つけた言葉は印象的であった。これらは、私の人生で最

た。修行中の柳生宗矩に、

た。修行中の柳生宗矩に、

た。修行中の柳生宗矩に、

た。修行中の柳生宗矩に、

(鳥取市)